

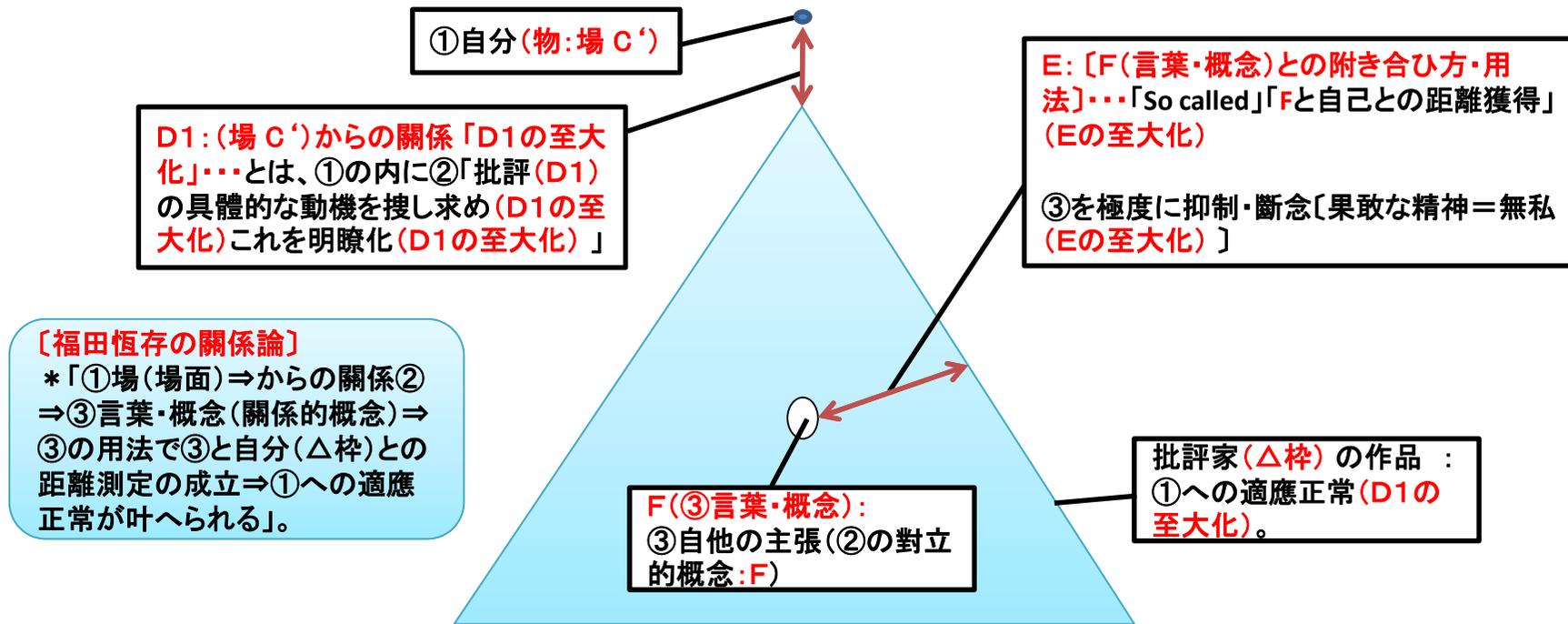
【難解 小林秀雄には 恒存の関係論が最適】 《小林秀雄評論『批評』（感想VI）》：「批評精神の純粹な形」

* ①自分(物:場 C') ⇒からの関係:とは、①の内に②「批評(D1)の具体的な動機を捜し求め(D1の至大化)これを明瞭化(D1の至大化)」⇒③自他の主張(②の對立的概念:F)⇒③を極度に抑制・斷念[果敢な精神=無私(Eの至大化)]⇒批評家(△粹)の作品 :①への適應正常(D1の至大化)。

《カントの近代的クリチックの大道(『批判哲學』D1の至大化)とは》(『批評』:全11P290)

* 「『批判哲學』(D1の至大化)と言はれてゐるカントの仕事(D1)は、人間理性の在るがまま(物:場 C')の形をつかむ(D1の至大化)には、獨斷的態度(D1の至小化)はもちろん懷疑的態度(D1の至小化)もすてなければ(D1の至小化)ならない。すててみれば(D1の至小化)、そこにおのづから批判的態度(D1の至大化)と呼ぶべきものが現れる(D1の至大化)」。

* ①對象(物:場 C')②對象のあるがままの性質(物:場 C')③他と違ふ特質(物:場 C')⇒からの関係:[①を正しく評價(D1の至大化)。とは②を積極的に肯定(D1の至大化)。その爲には③を明瞭化(D1の至大化)]⇒その爲には分析・限定(①②③的概念:F)⇒といふ手段は必至(Eの至大化)⇒カント(△粹):①への適應正常(D1の至大化)。



【福田恒存の関係論】

* 「①場(場面)⇒からの関係②⇒③言葉・概念(关系的概念)⇒③の用法で③と自分(△粹)との距離測定の成立⇒①への適應正常が叶へられる」。